

本当の教えに出会うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

無碍の一道 第92号

発行:2024年3月20日
発行者:浄土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺
〒739-0147 住職 天野英昭
東広島市八本松西6丁目10番1号
☎・FAX 082-428-1360

天龍寺仏教婦人会法座（追悼法要）

日時 4月14日(日) 13:00~15:30

ご講師 広島別院ご輪番

島根県飯南町 西雲寺ご住職

榮 俊英 師



宗祖親鸞聖人降誕会法座

日時 5月23日(木) 9:00~15:00頃

朝席 9:00~ 昼席 13:00~

講師 天野 由昭(天龍寺若院)

安居会法座

日時 6月26日(木) 9:00~15:00頃

朝席 9:00~ 昼席 13:00~

講師 天野 英昭(天龍寺住職)



第139回歎異抄輪読会

日時 4月18日(木) 14:00~15:30頃

ご講師 松田正典先生(広島大学名誉教授)

費用 500円

「第六章 十五、信心」からです。

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です。

天龍寺仏教壮年会月例会

3月31日(日) 15:00~16:30頃



ゆかり(縁)カフェ

4月 日(土) 14:00~15:30

天龍寺仏教婦人会清掃奉仕

6月13日(土) 13:30~

毎年2月~3月にかけて、天龍寺仏教婦人会では
ダーナ募金活動を行います。皆様には、今年も快くご
協力を頂き誠にありがとうございました。

頂いた浄財は災害義援金として、また地域のお役
に立てるように使わせて頂きます。

天龍寺仏教婦人会

に が びゃく どう 「二河白道」・・・人生の方向性、目的 I

私事で恐縮ですが、一昨年(2019年)の6月に心筋梗塞になりました。実は心筋梗塞で救急車に搬送される、半年前から肩の痛み、肘の痛み、背中の張り、時には歯が痛かったこともあり。20代の後半から腰が悪く、近年では、1年の内に2~3回のぎっくり腰のなっており、素人判断で肩の痛みも含め腰が原因だと思っておりました。まさか今申したような痛み等が、心筋梗塞の前兆とは思いませんでした。

それが6月のある日の夕方に突然と心筋梗塞になりました。その日の午前中には、西条の施設で、一人である仕事をしておりました。その時に倒れていたら、今の自分は無いと思っております。この世のご縁とは、不思議なものだと思っております。

夕方に急に今まで経験したことが無いような胸の苦しみを覚え、携帯電話で119に電話をしました。電話が通じて、救急車の要請をお願いしようと思いましたが、あまりの苦しさに声を出すことが出来ませんでした。本当に苦しいと言葉を発することも難しいのだとその時に知ったことです。よって近くにいた妻に代わってもらい、救急車に当山に来ていただきました。私は、その時自分のどの部分が悪いのかさえも理解が出来ていませんでした。救急車に乗せられ、隊員の方が、私に「どの部分がしんどいのですか。」等の質問があり、意識が薄れていく中、自分がどのような行動を取ったかははっきり覚えておりません。

救急車で西条の医療センターに搬送され手術台にのせられるまで、不思議な体験をしたことです。まず意識が薄れ落ちていく感覚を覚えた事です。「来るべき時が来たか。」と思いました。また、搬送される間は、心の中で「南無阿弥陀仏」と称えておりました。日頃、私たちが拠り所になっている「家族、財産、健康等」という物が、まったく通用しない時間でした。その時、南無阿弥陀仏と共にこの境涯を生きていき、南無阿弥陀仏と共にこの境涯を一人で去っていくのだと再認識したことです。

一方で、心筋梗塞になるまでは、これまでの自分の人生を振り返り、私なりに自分の人生に及第点をつけておりました。よって来るべき時が来ても、あまり人生に後悔はしないと思っていました。

しかしながら救急車に搬送され、医療センターで手術が終了するまで、私の心の中では、死への恐怖心等ではなく、むなしさの思いで一杯でした。「死」という絶対的な物の前では、自分自身が気づいていなかった、私の本当の思いがおこったのです。これまで度々、自分が死に直面したときに自分の中でどのような感情が生まれ、どのような精神状態になるのかと想像したことがありましたが、私の場合は想像していた事とは、まったく違っていました。(次号に続きます。)

ゆかり(縁)カフェとは

「ゆかりカフェ」とは

出会って、

仏様にご挨拶して

笑って、歌って、お茶して、

おしゃべりして、

みんなの出遇いの場です。

2月17日(土)のゆかりカフェの様子です。

遊休品バザーを行い、災害義援金とさせていただきます。歌も少し、若院のお話も少し。



お気軽にお立ち寄りください